

■ 本冊子の活用にあたって ■

1 概要

カリキュラムとは、受講者から見れば訓練コースの到達目標であり、指導者から見れば指導内容の指針を示すもので、訓練目標を達成するために、受講者等の学習能力や習得段階を順序だてて編成した計画のことを指します。

有期実習型訓練の対象者は、職業の経験が浅く、職業能力を高めるための教育訓練機会がなかったために、職務上必要な知識、技能を有していない者です。

そのため、技能・技術を習得することとあわせて、働く意義や喜びを実感することも大切です。

また、有期実習型訓練受講後の評価によって、採用につながる（採用試験等を受けられる）ようにするため、企業の採用基準に見合う知識や技能・技術が習得できるカリキュラム（訓練実施計画）が必要となります。

有期実習型訓練に限らず、企業において教育訓練を計画する際には、担当する部署での仕事を行うための職業能力を明確にすることが重要です。

この冊子に掲載しているモデルカリキュラムは、平成21年度に作成したマテリアル・ハンドリング業、在宅介護業、プラスチック製造業、鍛造業、軽金属製品製造業の5業種のモデル評価シートに対応した訓練カリキュラムと平成20年度に作成した資料シリーズ31-1、31-2「有期実習型訓練カリキュラム作成のためのモデルカリキュラム集（No1、No2）」の訓練カリキュラムで構成しています。

なお、このモデルカリキュラムの作成にあたっては、有期実習型訓練の基本型の要件（平成20年7月時点）に基づき作成しています。

以下に、このカリキュラムを活用する際の共通する事項について説明します。

2 有期実習型訓練カリキュラム作成の考え方

2-1 モデルカリキュラム作成のガイドライン

モデルカリキュラムは、次の共通ガイドラインに沿って作成していること。

- (1) モデルカリキュラムは、業種毎に設置されている基準策定普及委員会における意見及び企業ヒアリングの結果を基に作成していること。
- (2) 有期実習型訓練を実施する企業が、訓練期間中の訓練（作業）内容や教育訓練環境に応じて、モデルカリキュラムのOJTおよびOff-JTの教科目や教科内容を選択、修正、追加または削除して企業独自のカリキュラムを作成するための参考モデルであること。
- (3) モデルカリキュラムは、訓練受講者及び指導者に対して次のとおり示すものであること。
 - ① 訓練受講者に対しては、訓練の目標や内容を理解させ、訓練の動機付けや受講意欲を喚起していること。
 - ② 指導者に対しては、訓練目標、訓練内容、訓練方法（座学・実技）、訓練時間等を記載し、指導内容の指針を示していること。
- (4) モデルカリキュラムは、モデル評価シートの内容に対応して作成していること。その際、モデル評価シートの能力ユニット、または職務や仕事の単位でいくつかの能力ユニットをまとめて教科名および細目の内容として記載することを基本としていること。
- (5) 総括的な訓練目標は、「職務内容の補助作業や作業の難易度に応じて上司等の指示又は訓練生の判断により作業ができる知識、技能・技術を習得すること」を前提としていること。
- (6) モデルカリキュラムの訓練対象者は、フリーター等正社員経験の少ない方（原則として過去5年以内に概ね3年以上継続して常用雇用されたことがない方。但し、学卒後6ヶ月以内の方を除く）であって、当該訓練内容は、「当該業界の知識および技能・技術を有さない者で就業意欲のある者」としていること。
- (7) モデルカリキュラムは、次の有期実習型訓練の訓練基準を基に作成していること。
 - ① 訓練期間は6ヵ月
有期実習型訓練の実施期間は、3ヵ月超6ヵ月以下で、最長の訓練期間で作成していること。
 - ② 総訓練時間は425時間
有期実習型訓練の総訓練時間は、6ヵ月あたり425時間以上で、最小の総訓練時間で作成していること。

- ③ O J Tの訓練割合は8割、O f f - J Tの訓練割合は2割（一部業種を除く）

総訓練時間に占めるO J Tの割合が2割以上8割以下で、一般に企業がO f f - J Tを実施するには、教育訓練環境や指導者及び経費等の面での負担が大きく実施が難しいことから、O f f - J Tの割合を2割で作成し、表1イ～ロのパターンで活用事例を作成していること。

表1 総訓練時間に占めるO J TとO f f - J Tの割当パターン例

イ	6ヵ月あたり425時間以上（O J T : O f f - J T = 8 : 2 = 340時間 : 85時間～O J T : O f f - J T = 2 : 8 = 85時間 : 340時間） 8時間/日→約54日（425時間の勤務日数）
ロ	3ヵ月あたり215時間以上（O J T : O f f - J T = 8 : 2 = 172時間 : 43時間～O J T : O f f - J T = 2 : 8 = 43時間 : 172時間） 8時間/日→約27日（215時間の勤務日数）
ハ	6ヵ月の訓練期間で就業時間の全てを訓練時間（O J T : O f f - J T = 8 : 2 = 768時間 : 192時間～O J T : O f f - J T = 2 : 8 = 192時間 : 768時間）、8時間/日→約120日（960時間の勤務日数）

※採用を前提とした訓練の場合は、1割まで比率を下げるすることができます。

- (8) 企業内でO f f - J Tを実施する場合、企業の教育訓練環境に対する依存度が大きいいため、企業が実施しやすい教科目や訓練内容を基本にし、当該業界で働く意義や喜びを感じられる内容や安全衛生を加えた教科目としていること。
- (9) O f f - J Tの「職業能力基礎講習」は、社会人としての常識の他、企業で働く者としての規則等の知識を習得する教科目であり、全業種同一教科名としていること。
- (10) O f f - J Tの「安全衛生」及び「安全衛生作業」、O J T教科の「安全衛生作業」は、安全衛生の知識や技能を習得する教科目であり、全業種同一教科名としていること。
- (11) O f f - J Tの学科教科の「能力評価」は、全業種同一教科名および同一時間数としていること。
- (12) O J Tは、具体的活動（制作・製造やサービス提供）の課題解決のための技能・技術及びそれに関する知識を訓練するものであり、O f f - J TはO J Tの補完やO J Tで習得しづらい訓練、安全に関する知識、技能を設定していること。
- (13) O J Tの訓練時間は、仕事（作業）の内容や企業（事業所）の違いから標準的に示しづらいところは仕事内容により柔軟に設定していること。
- (14) 活用にあっては、モデルカリキュラムのO J T及びO f f - J Tの内容を選択、削除、修正し、企業独自（オリジナル）の訓練カリキュラムを作成すること（「2-3モデルカリキュラム活用事例」を参照）。

2-2 訓練カリキュラム

「訓練カリキュラム」に記載される事項を各項目別に設定方法を説明します。

(1) 訓練科（コース）名

訓練科（コース）の名称は、職種・職務・職能・業務・技術内容などから訓練内容を想定できるものとする。なお、ほかに同じ分野の技能要素を習得するための訓練科を設定する場合は、訓練科名中に補足名を記載したり、一連の訓練科に関連した名称にするとわかりやすくなります。

(2) 訓練終了後の関連職種

就職の職務は、受講者が担当する部署の職務や仕事の範囲が概ね想定できる内容とします。

(3) 訓練目標

訓練目標は、訓練の必要性・効果・期待なども含めた訓練終了後の人材像を設定します。たとえば、「〇〇技術者の職務」「△〇を有する技能者」で、習得する能力は「専門要素は〇〇の要素ほか」で、習得する内容の水準は、「〇〇の管理ができる、△△を取り扱うことができる」などを盛り込み、解りやすく設定します。

(4) 仕上がり像

仕上がり像は、上記③の「訓練目標」をより具体的に示すために、上記（2）の「就職の職務」の範囲で、訓練終了後に、どのような仕事や業務ができるようになるかを設定します。

(5) O J T

仕上がり像にある仕事や業務から訓練すべき要素を抽出し、「職務名又は教科名」「職務又は教科の内容」「時間数」をあわせて示します。なお、「職務名又は教科名」には、実際の作業名などを記載すると仕事との関連などがよりわかりやすくなります。

(6) O f f - J T

O f f - J Tは、O J Tを補完する基本の知識や安全作業の徹底など、訓練すべき要素を抽出します。

① 学科

抽出したO f f - J Tの内容から座学等による知識の習得が効果的である内容を選別し、「職務名又は教科名」「職務又は教科の内容」「時間数」を示します。

② 実技

抽出したO f f - J Tの内容から実習等による知識、技能・技術の習得が効果的である内容を選別し、「職務名又は教科名」「職務又は教科の内容」「時間数」を示し

ます。

(7) 主な設備機器

教育訓練に必要な器工具や設備、備品等を示します。

(8) O f f - J T の実施主体

事業外でO f f - J T やO J T を実施する場合に、教育訓練を実施する組織や機関名などを示します。

O J T と O f f - J T

有期実習型訓練は、企業が受講者と雇用契約を結んでおこなう訓練であり、カリキュラムは、O J T（実習）とO f f - J T（座学、実習）で構成されます。

通常、企業が訓練を実施するということは、企業が抱えている課題や問題を解決するための企業活動となります。

ここで、最も課題解決に直結した訓練がO J Tです。生産現場の問題や課題の原因を明らかにして、実際の現場で繰り返し訓練して課題解決を図ることができるからです。

しかしながら、全ての課題をO J Tで解決できるかという点必ずしもそうではありません。O J Tではできない内容や効率的でない内容、あらかじめ習熟しておくことでO J Tを通じてより効率良く習得できる内容もあります。

そこでO f f - J Tを活用します。例えば事故等が起こった際の対処法などを事前に習得しておくことや設備の操作方法を事前にシミュレーションして、習熟しておくことでO J Tがより良い訓練となると考えます。また、座学により体系的に知識を得ておくことと実習等を効率良くおこなうことができたり、課題解決活動がよりスムーズに進められることも考えられます。

このように、O f f - J T（座学、実習）はO J Tを補完する位置づけを想定して進めるとよいでしょう。

2-3 モデルカリキュラム活用事例

活用事例は、図1の左側の赤枠のモデルカリキュラムより、右側の青枠『【活用事例1】Off-JT実技重視型カリキュラム』のように、モデルカリキュラムからどのような目的・内容でカリキュラムを変更したか明記したものになっております。この場合、「Off-JT実技重視型カリキュラム」とありますので、モデルカリキュラムからOff-JTでの実習時間を増やしたカリキュラム構成になっております。モデルカリキュラムからの変更・追記・削除部分等をわかりやすくするため、活用事例には赤字や取り消し線などで示しています。

なお、本資料での活用事例は、平成21年度作成業種（5業種）について13ページからの各業種のモデルカリキュラムを提示している頁の次頁から、活用事例を掲載しております（図2の構成）。また、活用事例を見やすくするために、図1のようにモデルカリキュラムと活用事例を見比べるようになっておりませんのでご了承ください。

●モデルカリキュラム(6か月訓練 425時間) ※6か月あたり425時間以上(OJT:Off-JT=8:2=340時間:85時間 ~ OJT:Off-JT=2:8=85時間:340時間) 8時間/日		【活用事例1】Off-JT実技重視型カリキュラム(6か月訓練 425時間) ※約54日(425時間の勤務日数)	
マテリアルハンドリング業における教育訓練カリキュラム 平成22年1月作成		マテリアルハンドリング業における教育訓練カリキュラム 平成22年1月作成	
訓練科名(コース名)	マテリアル・ハンドリング業教科(制図コース)	訓練終了後の関連職種	マテリアル・ハンドリング業における実務設計/詳細設計の職種
訓練目標	職業意識の啓発を促し、社会人としての常識や心構えを身につけ、マテリアル・ハンドリング業について、実務設計/詳細設計に係る製図の基本的な知識と技術を習得する。		
仕上がり像	マテリアル・ハンドリング業における設計に係る製図の基本的な業務ができる。		
職務名又は教科名	職務又は教科の内容	時間	Off-JTの実施主体
(TOJO)実習			
実務設計/詳細設計実習	図面の読み方、2次元・3次元CAD、レイアウト設計、製品設計、部品設計	340	
安全衛生作業	5S活動、KY活動、労働安全衛生法、環境対策、廃棄物処理	各実習に包含	
OJT計 340(時間)			
職業能力基礎講習	ビジネスマナー、コミュニケーション、チームワーク、企業活動(事業領域、組織、経営理念、社是等)の理解、職業倫理とコンプライアンス、接遇(身だしなみ、態度、CS(顧客満足))、ホスピタリティ	6	新規採用研修等
安全衛生	5S(整理、整頓、清掃、清潔、結)、安全装置や保護具の用途と安全作業(安全点検、KY)、労働災害の防止、健康管理、リスクアセスメント	3	
製図の基本知識	図面作成知識、製図関連JIS(「JIS31製図補則1」、B0011「機械図」他)、CAD製図の基本事項(CADの機能・用語・運用・活用技術)、CAD製図に関する日本工業規格、CADの活用技術(CADシステムの構築・構成、ハードウェア・ソフトウェア)	18	
能力評価	オリエンテーション、能力評価(企業評価、自己評価)	10	
学科計 37(0時間)			
安全衛生作業	安全作業(5S活動、KY活動)、衛生管理実務、救急法	6	
CAD基本実習	CADの概要、CADシステム概要、基本操作、作図・編集コマンドの使い方、作図	24	
実務設計/詳細設計の基本実習	図面の読み方、レイアウト設計、部品設計、製品設計、設計管理	18	
実技計 48(0時間)			
座学等(Off-JT)計 85(0時間)			
有期実習型訓練合計 425(0時間)			
主要な設備・機器、教材	パソコンシステム(ソフトウェア含む)、製図用具一式、マテリアル・ハンドリング機器(各種ラック、パレタイザ・デパレタイザ、コンベア)		
訓練科名			
訓練			
仕上がり像	マテリアル・ハンドリング業における設計に係る製図の基本的な業務ができる。		
職務名又は教科名	職務又は教科の内容	時間	Off-JTの実施主体
(TOJO)実習			
実務設計/詳細設計実習	図面の読み方、2次元・3次元CAD、レイアウト設計、製品設計、部品設計	300	
安全衛生作業	5S活動、KY活動、労働安全衛生法、環境対策、廃棄物処理	各実習に包含	
OJT計 300(時間)			
職業能力基礎講習	ビジネスマナー、コミュニケーション、チームワーク、企業活動(事業領域、組織、経営理念、社是等)の理解、職業倫理とコンプライアンス、接遇(身だしなみ、態度、CS(顧客満足))、ホスピタリティ	6	新規採用研修等
安全衛生	5S(整理、整頓、清掃、清潔、結)、安全装置や保護具の用途と安全作業(安全点検、KY)、労働災害の防止、健康管理、リスクアセスメント	3	
製図の基本知識	図面作成知識、製図関連JIS(「JIS31製図補則1」、B0011「機械図」他)、CAD製図の基本事項(CADの機能・用語・運用・活用技術)、CAD製図に関する日本工業規格、CADの活用技術(CADシステムの構築・構成、ハードウェア・ソフトウェア)	13	
能力評価	オリエンテーション、能力評価(企業評価、自己評価)	10	
学科計 32(0時間)			
安全衛生作業	安全作業(5S活動、KY活動)、衛生管理実務、救急法	3	
FC基本実習	文書作成、帳票作成、情報検索、電子メール	18	
CAD基本実習	CADの概要、CADシステム概要、基本操作、作図・編集コマンドの使い方、作図	36	
実務設計/詳細設計の基本実習	図面の読み方、レイアウト設計、部品設計、製品設計、設計管理	36	
実技計 93(0時間)			
座学等(Off-JT)計 125(0時間)			
有期実習型訓練合計 425(0時間)			
主要な設備・機器、教材	パソコンシステム(ソフトウェア含む)、製図用具一式、マテリアル・ハンドリング機器(各種ラック、パレタイザ・デパレタイザ、コンベア)		

図1 活用事例について

マテリアル・ハンドリング実践科(製図コース) 訓練カリキュラム				
平成22年1月作成				
訓練科名(コース名)	マテリアル・ハンドリング実践科(製図コース)	印刷終了後の関連職種	マテリアル・ハンドリング業における実務設計/詳細設計の職種	
訓練目標	職業意識の啓発を促し、社会人としての常識や心構えを身につけ、マテリアル・ハンドリング業について、実務設計/詳細設計に係る製図の基本的な知識と技術を習得する。			
仕上がり	マテリアル・ハンドリング業における設計に係る製図の基本的な業務ができる。			
職務名又は教科名	職務又は教科の内容	時間	Off-JTの実施主体	備考
(TO)実習	実務設計/詳細設計実習	図面の読み方、2次元・3次元CAD、レイアウト設計、製品設計、部品設計	340	
	安全衛生作業	5S活動、KY活動、労働安全衛生法、環境対策、廃棄物処理	各実習に包含	
		OJT計 340時間		
学科	安全衛生	5S(整理、整頓、清掃、清拭、結)、安全設備や保護具の用途と安全作業(安全点検、KY)、労働災害の防止、健康管理、リスクアセスメント	3	
	製図の基本知識	図面作成知識、製図関連JIS(『JISB1001製図通则』、B0001「機械製図」他)、CAD製図の基本事項(CADの機能・用途・運用・活用技術)、CAD製図に関する日本工業規格、CADの活用技術(CADシステムの種類・構成、ハードウェア・ソフトウェア)	18	
	能力評価	オリエンテーション、能力評価(企業評価、自己評価)	10	
	学科計 37.0時間			
	安全衛生作業	安全作業(5S活動、KY活動)、衛生管理実務、救急法	6	
実技	CAD基本実習	CADの概要、CADシステム概要、基本操作、作図・編集コマンドの使い方、作図	24	
	実務設計/詳細設計の基本実習	図面の読み方、レイアウト設計、部品設計、製品設計、設計管理	18	
	実技計 42.0時間			
主要な設備・機器、教材		パソコンシステム(ソフトウェア含む)、製図用具一式、マテリアル・ハンドリング機器(各種ラック、パライザ・デパライザ、コンベア)		
		座学等(Off-JT)計 85.0時間		
		有期実習型訓練合計 425.0時間		

モデルカリキュラム掲載ページ



マテリアル・ハンドリング実践科(製図コース) 訓練カリキュラム				
平成22年1月作成				
訓練科名(コース名)	マテリアル・ハンドリング実践科(製図コース)	印刷終了後の関連職種	マテリアル・ハンドリング業における実務設計/詳細設計の職種	
訓練目標	職業意識の啓発を促し、社会人としての常識や心構えを身につけ、マテリアル・ハンドリング業について、実務設計/詳細設計に係る製図の基本的な知識と技術を習得する。			
仕上がり	マテリアル・ハンドリング業における設計に係る製図の基本的な業務ができる。			
職務名又は教科名	職務又は教科の内容	時間	Off-JTの実施主体	備考
(TO)実習	実務設計/詳細設計実習	図面の読み方、2次元・3次元CAD、レイアウト設計、製品設計	300	変更(時間数削減) 340→300
	安全衛生作業	5S活動、KY活動、労働安全衛生法、環境対策、廃棄物処理	各実習に包含	
		OJT計 300時間		
学科	安全衛生	5S(整理、整頓、清掃、清拭、結)、安全設備や保護具の用途と安全作業(安全点検、KY)、労働災害の防止、健康管理、リスクアセスメント	3	
	製図の基本知識	図面作成知識、製図関連JIS(『JISB1001製図通则』、B0001「機械製図」他)、CAD製図の基本事項(CADの機能・用途・運用・活用技術)、CAD製図に関する日本工業規格、CADの活用技術(CADシステムの種類・構成、ハードウェア・ソフトウェア)	13	変更(時間数削減) 18→13 教科内容削除
	能力評価	オリエンテーション、能力評価(企業評価、自己評価)	10	能力評価は、10時間以内の設定です。
	学科計 32.0時間			
	安全衛生作業	安全作業(5S活動、KY活動)、衛生管理実務、救急法	3	変更(時間数削減) 6→3
実技	PC基本実習	文書作成、帳票作成、情報検索、電子メール	18	教科追加
	CAD基本実習	CADの概要、CADシステム概要、基本操作、作図・編集コマンドの使い方、作図	36	変更(時間数増加) 24→36
	実務設計/詳細設計の基本実習	図面の読み方、レイアウト設計、部品設計、製品設計、設計管理	36	変更(時間数増加) 18→36
主要な設備・機器、教材		パソコンシステム(ソフトウェア含む)、製図用具一式、マテリアル・ハンドリング機器(各種ラック、パライザ・デパライザ、コンベア)		
		座学等(Off-JT)計 125.0時間		
		有期実習型訓練合計 425.0時間		

モデルカリキュラムの活用事例掲載ページ

図2 本資料での活用事例掲載について

